2011.7.16（土）　紀伊國屋書店札幌本店１階インナーガーデン

# 「命の授業」

## トーク：写真家ジャーナリスト　中川こうじ

しっぽの会代表稲垣:
皆さま、本日はお越し頂きまして有難うございます。今年のしっぽの会のイベントは猫が中心のイベントですが、いろいろ模索する中で中川こうじさんに巡り合うことができました。中川こうじさんの写真や言葉が印象的で、是非、中川さんにイベントに参加していただきたいと連絡させていただきましたところ、快く引き受けてくださいました。
中川さんは元戦場カメラマンということで命に対して思うところがたくさんある方ですので、是非心に染みるお話をしていただけたらと思います。皆さん、最後までどうぞ宜しくお願いします。
では、中川こうじさん宜しくお願いいたします。（拍手）

中川こうじ氏：
はい、皆さん、こんにちは。中川です。
今、ちょっと紹介してもらいましたが、元戦場カメラマンということですけど、ちょっと違和感があるので修正をしていただきたいんですが、最近、戦場カメラマンというと、皆さん、よくご存知の渡辺陽一さんという方、職業的にはメジャーになってきた気がするのですが、彼が出る前は、「職業はなんですか？」って、戦場カメラマンって言ったら、「へぇ～、船の上で写真を撮るんですね」とかよく言われるような状態でした。
正直言って、戦場カメラマンという職業は世の中にはありません。カメラマンです。

ただ被写体が、皆さん、例えば、カメラ趣味の方は花を撮ったりしますけど、僕の場合は紛争地に行って写真を撮りました。世の中が「戦場カメラマン」って言っているだけということは覚えておいてください。
それで、なぜここでマイクを持ってお話ができるかと言いますと、たぶん皆さんの経験していないことを、ちょっとしているからだと思います。実は僕はもう 50 歳ですが、僕達の年代だと戦争っていうとかなり遠い世界のことだと思うんです。でも 10 年、15 年、20 年くらい先輩の方になるともう戦争って身近なんですね。
日本は戦争で本当に大変な思いをしている国ですから、20 年先輩くらいの人と話をすると、戦地経験があったり、例えば戦争の体験をしてみえたり、空襲の体験をしてみえたりする。
今回のトークはどちらかというと僕達の年代より下の人、若い人達に話せればいいかな。
年配の方には、「昔そうだったなぁ。」って思い出していただければいいかなと思います。

## 猫の写真を撮るようになった訳

とにかく僕は 21 歳の時にちょっとしたきっかけで、戦場で写真を撮るようになりましたが、今、僕は猫の写真を撮っています。で、猫を撮っているとすぐに動物愛護という括りにいきますが、僕の中には申し訳ないけど動物愛護という括りはないんですね。
じゃ、なぜ猫を撮っているのかというと、最初に僕が猫を撮り始めたきっかけは、戦地に行ったら自分の身も心もボロボロになって帰ってくるので、周りの人が心配をしてくれます。で、いつも社会の中では汚れたものを撮るので、たまにはきれいなものでも撮ったらってよく誘われるんです。で、ある時にちょうど春でしたが桜の花が綺麗で、「桜の花でも撮ってちょっと癒されたら？」って言われ、ある公園に誘われました。あんまり気乗りもしなかったのですが、花見で賑わっている公園で桜を撮ろうと思いました。桜の花にカメラを向けて写真を撮影しようとしたその時、足元の茂みの中を見たら野良猫がいたんですね。
で、その野良猫は草むらに横たわっていましたが、どう見ても死んでいるんです。その時、桜を見ている人達とその猫の亡骸との違和感がすごく心に残ったんですよ。
なぜかというと、猫が亡くなっているわけです。やっぱり命ですよね。自分の家の猫が亡くなったら悲しいですよね。亡くなっている猫がいるんだけど、桜を見ている人達は上ばっかり見ていて、「綺麗だねぇ～」って凄い満面の笑みでニコニコしながら、ヘタしたらその亡骸を踏み潰しそうになりながら、またいで過ぎて行くような状態でした。
その時に思ったんですね。“どっかで見たなこの光景”って。どこで見たんだろうと考えてみたら、それは戦地でした。戦地っていっぱい人が死んでいきますが、どうしようもできない亡骸とかが街中にいっぱいあります。ほとんどが朽ち果てていくんですが、自分達の生活がありますからその亡骸の中で日常の生活をしようとします。いわゆる人間の死体、亡骸、朽ち果てていくその横の屋台でご飯を食べている人がいたりする。それが日常の生活になっていくんです。そこに違和感を感じ僕達は写真を撮り皆さんにお伝えする・・・そういう仕

事をしていたんだと思うんですね。その後、別の猫の表情を見たらその猫が何ともいえない表情をしていたんですね。皆さん満面の笑みで笑って「わぁー！」って大騒ぎをしているその中で、ずっと人を見ながら隠れている猫を見た時にまた思ったんですよ。“この猫の表情ってどこかで見たなと”それは戦地に住む子供達の表情でした。

## 現代の戦争は

僕はずっとこういう仕事をしていたので、どうしても反戦運動がしたかったんです。たまに紛争地の写真展をやりますが、いつも物凄い違和感があったんです。皆さん、涙も流してくれます。大変ですねとも言ってくれる。でもそれはその場で終わるんですね。なぜかというと自分たちのことではないからで、ここで戦争しているわけでもないですし、どっか爆弾が落ちてくるわけでもないですから、よそのことだなって。ヘタしたら、馬鹿なことしているなこの人達って思ってる人達もいると思います。
僕は 21 歳の時から戦争を経験していますけど、戦争って一言でいいますが、進化といったら表現が悪いですが今の戦争は物凄く冷淡になっています。
ひとつの例をあげると、例えば皆さんがよく聞く地雷、この地雷も兵器っていう物理的なものとしても変化していくんですよ。皆さんがイメージするボンと踏むと火薬でバーンと爆発して人間が吹っ飛んでしまう・・・でも今の地雷はそうじゃないですね。
なぜかというと、ドカーンと爆発させて人を殺そうとするとお金がかかるんですね。お金がかかるといけないということで、要はエコですよね。エコのために何をするかっていうと最小限の火薬で何とか人を殺傷させようとする、これが兵器の今の進み方です。
今の地雷はポンと踏むとほとんどが花火のようにシューと上がり、ねずみ花火みたいに回転するんですよ。わざと音も立てます。シュルシュルシュルーっていうんです。ボンって上がってきてシュルシュルっていったら見るでしょ？　見た瞬間、そのタイミングによって水平にパチンコ玉のようなものが飛ぶんですよ。どうなりますか？目だけがやられるんです。
実は今の戦争って、命を奪う兵器が少なくなってきています。例えば、十数年前の地雷は 1 個 1,500 円くらいかかりましたが、今の地雷は 1 個 350 円から 400 円くらいで作れる時代なんですね。これは経済的な話ばかりではなくて、実は物凄く冷淡になってきました。例えば、太平洋戦争を経験した方もいると思いますが、人が死ぬ、これは凄く大変なことです。悲惨なことだとも思いますけど、例えば、人が亡くなるということで終戦を迎え復興しようとするスピードと、目だけやられる、手だけ飛ぶ、足だけがなくなる人達が大勢いる中で終戦をして復興しようとする・・・これって物凄く後者の方が莫大なエネルギーがかかるんです。カンボジアは皆さんよくご存知だと思いますが、僕が入った当時は、ちょうどポルポトさんがもう負けてきてアンコールワットの奥に隠れ、印象的なのが日本の自衛隊が PKO で入るとか入らないとかもめている時代だったと思います。
その時代に僕はカンボジアに入りましたが、ドンパチやっていることよりも“あぁ～悲惨だ

な”と思ったのが、カンボジアの空港に降り瞬間に、手のない人、足のない人、目の見えない人がいっぱいいるわけですよ。なんでこうなるのかというと、それは地雷なんですね。
僕達戦場カメラマンっていうかジャーナリストといわれる人達は、僕の立場から言わせるととっても冷たい人間だと思うんですね。なぜかというと、現地に入っていろんなこと言ってくる、「頑張れよ。」と言ったりもするのですが、冷たいことに僕達は自分達の都合が悪ければ、その国から出て行けるんですよ。でも、カンボジアの子達はそこで苦しんで、そのままそこにいなきゃいけない。他の国に行きたくてもそんな自由はない。

僕は戦争で一番印象的なものは何ですかとよく聞かれたりしますが、やっぱり人との出会いだろうと思うんですね。カンボジアにある兄弟がいましたが、その当時 15 歳と 11 歳の兄弟でしたが、11 歳の弟には片腕がありませんでした。「どうしたの？」と聞いたら、「地雷。」って答えました。で、お兄さんの方は、それをすごく悲しんで、一生懸命献身的に面倒を看てとてもいいお兄さんでした。で、いろんな話をするんですが、弟に「夢はなに？」と聞いてみたところ、そしたら、大概、そういう戦地の子達っていうのは外部の人間に触れるのは僕達みたいな関係の仕事の人達と触れますから、「お兄さんみたいにカメラマンになりたい。」って言うんですよ。カンボジアって貧乏です。カメラマンにもお金がかかります。
カメラも買わなきゃいけない、いろんなもんも揃えなきゃいけない。で、やっぱり下世話な言い方をすると、「へぇ～、頑張ってね。」って言っているけど、心の中で“無理だよ”と思うんですよ。腕も失っているわけですし、それにカメラも買えないでしょって思う。その中でただ無意識になんか本当に空虚な言葉として「頑張ってね。」っていう声をかけて、自分は自分の国に帰って、また「わぁー！」って騒いだり喜んだりするんですよ。で、次に訪ねて行った時に物凄く印象的だったのが、その子供が木の枠ですけど、ただマジックでカメラの絵が書いてあって、もう疎かなもんですよね。で、それをパチリ、パチリって言っているんですね。「おぉ、どうしたの？」って聞いたら、「お兄ちゃんにカメラ作ってもらった。」と言って、「僕はカンボジアの写真を撮っている。」と言いました。撮れないんですよ、箱で作っているだけですから。でも一瞬、僕達も聞く。「えぇ、なに撮ったの？」って。で、その彼が言った印象的な言葉は、何々を撮った、あれを撮った、これを撮ったって言うんですが、それが悲惨な荒廃としたモノクロの世界のカンボジアの中で、復興した時の色鮮やかなカンボジアの姿を話すんですよ。こういう風なこんなカンボジアを撮った、おじいちゃんが話していたこんなカンボジアを撮ったと。彼はそれが夢だったと思うんですね。
それをお兄さんがニコニコと見ていました。でもそんなものは戦地では永く続かないんです。その次に訪ねていった時に、なんとその彼はその箱を持てなくなっていました。片腕を失ったけれど少し元気になってきた、お父さんお母さんが畑仕事をしているから手伝わなければということで一生懸命頑張手伝ってその畑に地雷が埋まっていた・・・悲しいかな、残っていた片腕も無くしてしまいました。それでも写真を撮りたいってずっと言っていました。そして、次に訪ねていった時にはその子はもういませんでした。「え、どうしたの？」って聞

いたら、お兄さんが、「あれからやめとけって言ったのに、やっぱりお父さんお母さんの仕事を手伝ってあげたいって言って、また地雷を踏んだ。」と悲しそうに話していました。これは特別な話ではなくて、カンボジアにはこのような子供がゴロゴロいるんですね。これはカンボジアだけではなくて、地雷の問題を抱えている国はたくさんあると思うんです。

## 戦争は他人事ではない

ひとつ考えてください。皆さん、戦争ってつい対岸の火事ですよね？
私達には関係ないとか思っているのかも分かりませんが、実は今の戦争、社会科で習った戦争とは違います。宗教だの何だのっていう戦争は、今でも立場上は宗教とか言われていますけど、八割九割ほとんどそういう民族紛争ではないんです。何かっていうと、いわゆる物資の奪い合い。ブラッドオイル、ブラッドマネー、ブラッドダイヤ・・・最近はひとつ増えました。ブラッドメタルです。こういうものを求めて戦争しているんです。
いわゆる利権争いです。じゃ、皆さん考えてみてください。私達の生活に関係ないですか？って。実際はそういうカンボジアとかの人達は、オイルだのマネーだのダイヤだのレアメタルだのって求めていないんですね。求めているのは僕達なんですよ。
皆さん、携帯持っていますよね。携帯にはレアメタルが使われています。まだまだ使えるのに、あぁ、もうそろそろ飽きたからって変えたりするでしょ。今はだいぶリサイクルするようになりましが、一頃は捨てていたんですよ。捨てて新しい携帯を手に入れるには、当然、レアメタルが必要になります。それをその国に求めます、その産地にね。それで利権が起こります。それで殺し合いが始まっている。皆さん、女性の方が今回多いですけど、つけるなってことじゃないけど、例えばダイヤモンド。そのダイヤはどうやってどういう流れで来ているのか、僕達はそれを考えていかなきゃいけない。

皆さん、ニュースでソマリアの海賊って聞いたことあると思いますが、確かに暴力を使って悪いですが、じゃ、なんでそのソマリアに海賊が出たのか分かりますか？
ソマリアって国は内戦を起こし、いわゆる無政府状態になりました。今のソマリアの海賊っていう人達は元沿岸警備隊なんですよ。最初のルーツは沿岸警備隊がいて、その人達が国が復興した時に自分達の国があるようにと自主的に海の外をまわってパトロールをしていました。その際、ソマリアって国がなくなった時点で、実は僕たち先進国の人達は何をしてきたか知っていますか？その管理がなくなった、いわゆる何十海里とかっていう領海がなくなった、それをいいことに、マグロの産地である海域に色んな国の人達がマグロを捕りに行った。僕達、マグロ食べているんですよ。世界でも有数の消費国です。その僕たちが必要だから、そのマグロを捕りに行った。それで、マグロが急にそこに減ったんです。
で、その元沿岸警備隊の人達がそれはよくない、もし復興した時に資源がなくなったらって抵抗していましたがそれが及ばない。抵抗がだんだん暴力に変わっていった。

それがもともとの海賊のルーツなんです。悪いんだよって僕達一言で言えないんですよ。

## 人間は誰かしらに迷惑をかけて生きている

皆さん思ってください。僕たち生活している時には自分一人では生きていけないんですね。絶対、誰かに迷惑かけているんです。例えば、今回、僕は「命の授業」という大層なタイトルがついていますが、学校でこういうタイトルで話をするんです。子供達によく話をします。例えば、バレンタインデーにチョコレートを買いますよね。チョコレート好きな人にプレゼントしたり、義理チョコもあったりします。男の人は密かにチョコレートこないかなと思ったりする。それがステータスみたいになっちゃったり、ダメだったら、自分で買ってきて、俺、もらったとか嘘ついたり色々するんでしょうけど、チョコレートの原料はカカオですが、カカオの産地はガーナです。世界でも有数のカカオの産地のガーナの子供達は実は学校に行けてないんですね。なぜかというと、ガーナはカカオが主な収入源になります。
でも皆さんが思っているほどたくさんの収入は得られません。凄い所得が低いんですね。でも働かなければ食っていけないということで、そのガーナの子供達が一生懸命カカオを採っている。そのカカオを採ってくることで、皆さんはチョコレートを食べられたり、チョコレートをプレゼントできる。僕、食べるなと言ってるわけでも何でもないですよ。
何も使うなとか、まあ倹約するにこしたことはないでしょうけど、そういうことでなくて、だったら例えば、バレンタインデーにチョコレートもらって恋人同士になれたんだったら、その時に「有難う！」というのはガーナの子供達にだよね。だったら、二人で手紙でも書いて鉛筆の一本でも送ったらどうって、ずっと２年ほど子供達に言い続けてきました。
そうしたら、この間、ガーナ大使館の人と話しする機会があったんですが、たまに子供達から手紙が来るらしいんですね。なかには「中川さんに言われたから。」って書いてあって、中川って誰？みたいな話だったらしいのね。（笑）でも気持ちだと思うんですね。

## 結びつけていこう

今回、震災がありましたよね。今、福島で原発問題があります。原発が云々っていうのは色々の思想だと思いますけど、やっぱり東京の人達が例えば電力が欲しくて、東北の人に電力お願いしていてそれがトラブルになった。それだって縮図なわけじゃないですか。
僕達は生活してる時に、みんなに迷惑をかけながらやっている。例えば、戦地だって遠い世界ではありません。ここで一番近い戦地といわれるところだと、タイ、例えばミャンマー、この辺ですね。飛行機でどれだけで行けるか知っていますか？6 時間で行くんですよ。
去年 4 月、タイでデモがありましたよね。タイに旅行行ったことがある人もいると思いますが、僕も取材に行きましたけど、ロイターの村本記者が亡くなった時も、その亡くなった当日、すぐ近くにワットフォーっていう有名な観光地があるんですが、日本人の団体さんが

そこで大騒ぎしているんですよ。で、村本さんっていう記者が亡くなったんですよって言ったら、「へぇ～」みたいな。「そんなところに行くからだぁ～。」とか、何か訳の分からない話になっていく。そういう風に、自分たちとは結びついていかないんですね。
僕は何を言いたいかというと、「結び付けていきましょう」っていうことなんです。例えば、僕達こういうふうに生活をしている、させてもらっている。それだったら、少しこの余力を例えば、お金とか物理的なものじゃなくてもね、気持ちだけでも「思い」だけでもいいから、そういう風に「思ってあげる」ということが大事だと思うんです。例えば、カンボジアの子供達の話に戻りますが、カンボジアの子たちに色んな絵を描いてもらったりするんです。日本の話もしてあげる。先進国って言われる僕たちみたいなジャーナリストが入ってきて色んな話をしますから子供達は憧れている。カンボジアの子達に「日本はね、いい思いをしている」ってごめんなって言うと、ほとんどのカンボジアの子達はこう言います。「大丈夫、大丈夫。僕達が苦労している分、日本の子達とか日本の人達は幸せなんだろう。だったら、いいよ。幸せでいてくれればいいよ。僕達も頑張るから」って。

## 本当に僕達幸せに生きていますか？

じゃ、考えてみましょうよ。本当に僕達、幸せに生きていますか？僕は戦地に行ってボロボロになります。もう殺戮の世界です。人が死んだとか生きたとか裏切ったとか、そんな話ばっかり・・・。でもね、そこから僕達は安心感を求めて自分の国に帰ってきます。
その時に悲しいなって思うことがひとつあるんですね。実はカンボジアとかアフガニスタンとか戦地にいる人達、この人達に自殺したって人は聞いたことないんですね。それに子供達は夢を語れます。ところが、日本に帰ってきて、子供達に会います。例えば、色んなニュースを聞きます。まず最初にびっくりするのが自殺。だってカンボジアとかそういう明日も生きられない人の方が一生懸命生きようとしているのに、明日も生きられる皆さんが、明日を悲観して明日を自分でなしにする。子供達に聞いたら、夢がないとか言っちゃう。
これ、おかしくないですか？って。カンボジアの子達に言えませんよ。大丈夫だよ、日本は

みんな頑張っているから、だから一緒に頑張ってと言うしかない。自殺が多くて、夢がなくて・・・なんて言えませんよ。そしたら、カンボジアの子達は本当に目標がなくなってしまいます。皆さん、幸せなんです。こんなところに集団で座ってね、一時間話を聞きましょう。おっ、一時間か長いなとか思いながら。でもカンボジアにいたら一時間も話を聞きましょうっていったら、大概の人は一時間聞けるかな、上から爆弾降ってこないかな、ミサイルが飛んでこないか、地雷ないかとか言っちゃうんですよ。皆さん全然そんなこと心配してないでしょ。僕達、幸せなんですよ。例えば、統計的に世界中で 5 人の子供がいたとしたら、3 人は戦地に住んでいるといわれる。ということは、地域に 2 人の子供がいたりすると、それはとっても幸せなことなんです。物が手に入るとか入らないとかじゃなくて、まずそこですよね。

## 平和ボケしないこと

今回、僕はずーっとこうやって「命の授業」ってやってきました。僕が一番皆さんに何を言いたかったかっていうと、この 3 年 4 年こういうことやっていますが、「平和ボケするなよ」ということだと思うんです。もうちょっと考えようよって。ところがね、今回はそれを言わないで済んでいることと言ったら、凄く悪いんですが東日本大震災がありました。僕、震災の翌日に現地に入りましたけど、僕、20 年間ほど戦地に行っていて、これほど悲惨な場所はないと思っていましたが震災というのはもっと怖いんだなと思いました。
戦争ってやっぱり人間のしていることだなって変な意味で思ったんですね。なぜかというと、戦争もボロボロにはしますけど、人間のやっていることですから加減があるんですよ。
ところが自然災害って加減がないですね。もう何もかもみたいな、翌日に入った時はメディアから写真を撮ってと言われても撮れません。なぜかというとメディアの方で死体とか亡骸を出すわけにはいかないので、それのない場所を探して撮りますけど、ない場所がないんですね。で、その時に思ったのが人間の亡骸も、動物達、犬猫の亡骸も牛も馬も豚も、みんな一緒に流れの潮溜まりみたいなところに溜まっていて、あぁ、命だなって物凄く不謹慎だけどそう思いました。東北の人にインタビューすると必ず言われる。「もし今日、津波があるんだと思ってたらな、俺は何々と何々にもっと優しくしていれば良かった」って。「あぁ、あの時、笑ってやればよかった」。結局、残っていくのはそこなんですよ。
この世を去っていった人達にもっと親切にしてやればよかった、もっと優しくしてやればよかった、もっと温かく包んでやればよかったと。人間って「生きていく」前に「生き残っている」のだと思うんです。例えば、今、5 秒から 10 秒に一人、飢餓とか飢えで亡くなっています。もうここで 1 時間ですから、何十人、何百人の人が亡くなっていくんですよ。
でも皆さん、誰も倒れていません。お腹が減っている人はいるかもわかりませんけど、食べりゃいいって話ですからね。僕達はそんな中で、生き残って、生き残って、こうやって生活しているんだと思うんですよ。

## キーワードは「優しくなろう」

皆さん、今日は動物愛護で集まっているのかも分かりませんが、でも例えば、環境も守らなきゃいけない、原発の話もしなきゃわからない、当然、僕は反戦ですから反戦の運動をしたい。でも、ひとつ考えなきゃいけない、ひとつ何かキーワードとして必要なものは「優しくなろう」ということですよ。この歳になったら、愛だの優しいだのって言うと、大丈夫かお前とか言われますけど基本それしかないんですよ。猫、犬、人間、僕はちょっと写真展を上（紀伊國屋書店札幌本店 2F）でやっていますけど、例えば犬猫の世界でもそうですよね。猫の世話をしていると、猫の嫌いな人が来る。俺のうちに入るなよ！って、ウンコすんだよ、嫌いだよって言う。分かりますけど、その気持ちは。でも今の人種差別とほとんど変わんないじゃないですか。民族紛争とまったく一緒なわけですよ。やれ、中国人嫌いだ、やれ、インド人が嫌いだ。ましてや中国人をどんな人達なのか理解もしないで、いや～中国人っていうと、池の鯉汲んだとか訳の分からないことを言ったりして、そんなこと言っている人たちの小さな小さな積み重ねで紛争が起こっていくんですよ。ヒューマンですから、人と人ですから、理解して良いところもありゃ悪いところもあるんですよ。僕だっていいとこだって悪いとこだっていっぱいある。嘘なんかいつもついている、思わず大事な時に逃げ出したりする、寝たふりする、知らんふりする、いっぱいあります。あるけど、人なんですよ。

人と人が集まって、良いところを探してきて、悪いところは補ってあげようとすればいいのに、攻めてくんですね、今。どんどんどんどん叩いてく。そんなことしているから、例えば、犬や猫が来て糞をする。片付けりゃいいじゃんって話じゃないですか。それに、今、「地域猫」といういいシステムがあって、みんなで世話をして猫が嫌いな人に迷惑かからないようにすることだってできるわけですよ。手間はかかりますよ、正直言って。手間はかかりますけど、そんなことも出来る。例えば、皆さんが生活している時も、何か歪みがあるんであればそれをなくしてあげる。例えば、メーカーの名前言えませんが、ある高いコーヒーメーカーがありますが、そこで高いお金出してコーヒー買っているんだったら、ちょっとフェアトレードで直接生産した人からたまにコーヒーを買ってあげるだとか。別にほどこせということではなくて、何か少しずつ工夫をしてあげる。それがダメなら、「頑張ってね、私も頑張るから」という気持ちをずっと振りまく。それでいいと思うんです。ボランティアというと何か凄い肩肘を張って、なにかしなきゃと思っている人達もいっぱいいると思いますが、世の中を変えるのはそういう力じゃないんですよ。皆さんがほんのちょっと優しくなればいいだけ。国変えるのもみんなそうです。例えば、今、カンボジアが復興しようとしている。

弟が亡くなったお兄ちゃんがいる。そのお兄ちゃんがカンボジアの復興の為に頑張っている。なんでそんなに頑張るのって聞いたら、「自分の国だから。みんなが幸せになればいいから」と、聞いた僕が悪かったっていうような答えが返ってきます。僕達もそれを思わなきゃいけない。ましてや紛争だの震災だの、例えば、そういう思いをしていた人達は自分が生きていくことで精一杯だから、僕たち、せめて余力のある人がほんのちょっとの幸せをポンとわけてあげればいいだけだと思うんですね。携帯電話を１年に２回変えていたけど１回にしよ

うとか、携帯電話を 2 回変えたからその国に何か送ってあげようとか、頑張れって気持ちを表すとか。カンボジアの子もアフガニスタンの子もイラクの子供達に聞くと、一番欲しいものは何かって言ったら、幸せな国の人達が頑張ってくれっていうことみたいな、俺と一緒に生きているんだよって言ってくれることって言うんですよ。だから子供達の交流の中で、一生懸命日本の子供達が絵を描いて送ってあげる。それを凄く大事にしている。アフガニスタンの子ですけど、兄弟も親も何もかも爆撃で亡くし、今、難民キャンプのような施設にいるんですが、その子がいつもクシャクシャにして大事にしている宝物があります。それが日本の男の子が描いて送ってくれたドラえもんの絵だったりするんですね。“僕と君は一緒だ”みたいなことが書いてあるんです。書いた子はそんな思いで書いていないかも知れません。でも子供はそれを握り締めて、「いつも悲しかったら、これを見るんだ。」って言うんです。で、「いつか僕達も日本のような豊かな国の人になれるんだ。」って夢を見ているんです。まず僕達は豊かにならなきゃいけないんです。それは物理的なもんじゃないと思います。心だと思うんですよ。

## 犬猫ごときではない・・僕たちは命で繋がっている

なぜ紛争地で猫を撮っているか、反戦運動をしたいのになぜ愛護の会で喋ってるか、世の中犬猫ごときって言いますよね。でも、犬猫ごときも幸せにできない人達が、世界平和だの環境を守るだのできないと思うんですよ。まず隣に嫌な人がいようが、嫌いなものがあろうが、『命』として認める。これって大事なことだと思いませんか？まず生きているんです、みんな。みんなにも歴史があるんです。それをずっと考えてください。ひとつひとつの幸せを探していくのも凄い楽しいことだと思うんです。例えば、世界の５人に３人はクリスマスという言葉すら知らなかったりする。さっきのガーナの子なんてもっと凄いのは、カカオが何になるかを知らないんです。「チョコレートって言うんだぜ。」っていったら、チョコレートっていう言葉を知らない。当然、チョコレート見たことない。たまに持っていって食べさせてあげると、「うわぁ、こんなんになるの？」って。でもその子達は言います。「いい、いらない。」って。「だってこれは先進国、豊かな国の人達が食べるものでしょ。僕たち、喜んでくれるんなら、頑張ってカカオを採るよ。」って言ってくれる。「次はチョコレートないんだったら、食べなくていい。そんな味覚えたら、ずっと辛くなるからいいよ。」って言うんです。僕たち、思いましょう。本当に幸せです。僕たち、思いましょう。本当に豊かです。
だったら、少し分けてあげましょうよ。犬ごとき猫ごときでもいいですし、例えば、環境破壊をしないようにゴミを分別するなり、ちょっと自分でゴミを何とかするなり、ゴミを出さないようにするなり、一つ一つの工夫だと思うんですね。どうしても戦場カメラマンというと大きな話をされてしまいそうだし、大きな話を僕はしてしまいそうですが、実は国を変える、世の中を変えるのは僕たちの小さな心なんです。それを思ってください。
私に力はないなんて思わないでください。僕達は伝える役だけは出来ます。例えば、戦地に

行く、僕は猫も戦場、難民キャンプの子と同じだと思っているので、世界中を回って猫を撮ります。野良猫といわれるものだけを。その子供達が訴えることを皆さんにわかってもらえるように伝えます。あぁ、猫も生きているんだな、同じ命だなって、ただそれだけですよ。シンプルに考えて欲しいのは。それを皆さんが思って、明日から例えば今から何をしたらいいかなって考えてもらえればいいなと思うんです。

本当にボランティアの世界は縦割りになっています、縦割りになって、愛護だの環境破壊だだの、何とかだの、人権だのって言っていますが、僕たちは縦割りに動いていないんですね。戦争だってそうです。僕達、横に動いているだけですよ。縦に物事考えているわけでもないし、例えば、愛護の人達は愛護の人達で、僕達、生活してる時、犬猫だけに触れているわけでもないですし、僕たちは横でつながっていくことを考えていかなきゃならない。
日本って凄いいい言葉があるんですね。「絆（きずな）」震災の時に使いましたよね。この絆って、ただ「おぉ」って握手するんじゃないんですよ。別に物理的に握手しろってことじゃないんです。優しい気持ちに少しでもなりましょう。皆さんと同じ立場、例えば、ちょっと苦しんでいる人達がいたら、その立場におりて、ものを考えてあげましょう。
例えばお腹が痛いっていう人がいたら、一緒にお腹痛いってどういう風に痛いのかなって考えてあげたりね、そういうことの工夫だけだと思うんです。

今、紛争している国はいっぱいあります。で、例えば、動物愛護の問題もたくさんあります。戦っていることもいっぱいある。自殺もいっぱいある。いろんな問題があります。
でも僕は皆さんの優しい気持ちをちょっと分けてもらうだけで意図も簡単に変わると思っています。だから 20 年間ずっと反戦運動もしてきているし、猫の話をして皆さんに分かってもらおうともしています。カンボジアの男の子がこう言いました。僕の弟は亡くなった。僕はこれからカンボジアの復興に頑張る。でもこれは自分達のためじゃないんだって。次に紛争が起こらないようにするためにも、僕たちは頑張らなきゃいけない。許しちゃダメなんですよ。それこそ兵器だってエコとかいって、へぇ、エコなんだって言っている場合じゃないんですよ。どんどん兵器なんて悪くなっています。皆さんがよく知っているクラスター爆弾もある、精神的にちょっとおかしいですね、さっき言った経済的にもそうだけど、人の命をとるよりは何かで傷つけた方が復興しないってところにドンドンいってます。
だからクラスター爆弾の破片なんて極彩色に塗ってあるんですよ。で、なんで極彩色に塗ってあるかっていうと、その開発した技術者が顔色も変えずに言うんですよ。その後、飛び散って不発率が高いんだけど、これを子供が触るとこれで死傷率高くなるって訳の分からないこと言い出す。これを僕達、許しちゃダメですよ。戦えということじゃありません。とにかく僕たちは命だから、何人であろうとなんであろうが、犬であろうが猫であろうが、動物だろうが何だろうと僕たちは命で繋がっていくんだ！そういう強いものがあったら、必ず権力者達は負けます。そうなんだ、みんながそう思っているって。みんな、馬鹿にされるだけで

すよ。どうせ出来ないと皆さんも思っているでしょ。どうせ出来ないんだ、私達って。出来るんです。僕達しか変えられないんです。どんなに世界で紛争見てきていても、僕の一人の力じゃ変えられない。伝えるのが精一杯です。ヘタしたら、僕達は皆さんと違って、紛争地に行きますから、ボロボロになって帰ってきます。戦場カメラマンなんて殉職率 4 割ですよ。「よぉ、生きとるな、お前。」とか言われます。殉職率 4 割でそのうち帰ってきた人の半数がドラッグ中毒とかアルコール中毒とかでダメになってく。皆さん、心の余裕のある人達が手をつないで生きていこう、小さなことでも優しくしてあげようとか、小さなものでも温かくつつんであげよう、そう思ってください。そして、その前に自分の命ですよ。皆さんの家族の命ですよ。お子さんのいる人だったらお子さんに言ってあげてください。とにかく、自分の命は絶っちゃダメですよ。まず自分が生きなきゃ、他の人達は何も出来ない。それを強く思ってください。僕たちは幸せです、この上もない幸せ。なぜかいうと、生きていられるんです。そりゃ、病気とか交通事故とかもありますけど、でも一応、誰かに狙われているわけでもないし、こうして話を聞いている時に死ぬかなぁってドキドキするわけでもないでしょ。本当にそれを考えてください。でもそれは世界の中でも半数以下です、そういう立場にいる人達は。あぁ、幸せなんだってすごく思って欲しいと思います。そしたら、やるべきことも出てくると思うんですね。

## 気持ちをいい言葉で表現しよう

戦争の話ばかりで申し訳ないので、猫の話をちょっとすると、今、最近、僕は猫をいっぱい撮っていますが、こういうことをすると、どうしてもついつい家に連れてくる猫がいっぱい出て、我が家はなんと気がついたら、最近、点呼をとってみたら、40 匹の猫がいたっていう状態なんですが。（笑）その猫達、一匹一匹に個性があったりするんですね。僕はその 40 匹、それから里親さんにも出しました。団体じゃないので個人なのですが、三桁くらいの猫達がいきました。今回も北海道には 4 人くらいの里親さんがいるので、昨夜みんなでちょ

っとご飯食べましょうと言って、猫は連れてこれませんから、写真ですけど、2 時間くらい「ワーキャー！」言いながら盛り上がりました。これが幸せだし、凄い絆だなって思うんですよ。で、その人達も言うんですね。上（紀伊國屋本店札幌店 2F）にもいっぱい書いてありますよね。猫と暮らした方、犬と暮らした方、その引き受けた方が書いてある。もう本当に幸せをもらうんですよ。で、僕達は皆さんからもらう。僕もこうやって喋っているけど、実は皆さんに何もあげてるわけでもなくて、一番、勇気もらっているのは僕なんですよ。
皆さんが、うん、うんって聞いてくれるのを見て、明日からもう一回頑張ろうとか思うわけじゃないですか。そういう交換、やりとりをもっと恥ずかしげもなくすることだと思いますね。だから言ってください、恥ずかしげもなく、「愛してるよ。」とか「愛してんだ。」って。夫婦がいたら「愛してるんだ。」って言ってください。なかなか上手くいかない夫婦だっていっぱいいるのに、横に旦那さんだ奥さんだって「愛してんだ。」って。僕は紹介が遅れましたけど、こんなにベラベラ日本語を喋っているのに、なんと生まれたのはアメリカなのでアメリカ国籍なんですね。だから愛してる、愛してる、愛してるって、アメリカ人とか外国人ってすごく当たり前になってる。僕の親もいつも母親とか父親が愛してる、愛してる、って言ってました。で、日本ってそういう言葉って凄い大事にするじゃないですか。
だから日本に来た時に、愛してるとかそういうのが飛び交っているのかなと思ったらないんですよね。日本って言葉の文化だと思うんですよ。凄い情緒のある言葉の文化だから、せっかくその文化があるんだったら使いましょうよ。僕は世界中回りました。色んな国の人と会いました。でも僕が日本人だからこんなこと言うのかも分かりませんが、世界を変えられるのは日本人だけだと思っているんですよ。この情緒の豊かさと、あと僕たちは経験しているんですね。例えば、太平洋戦争経験している、それから世界で唯一の被爆国だったりする。一通り経験しているんです。今回もうひとつ増えました。津波っていう嫌な思いも経験しました。犠牲者も作りました。悲しみで支配されている人達も生みました。だからこそ僕たちは世界を変えられるんですよ。で、言葉の文化も知っています、それこそ情緒豊かに表現する力も持っている。なんで使わないと思いません？皆さん、ちょっと日本人におごり高ぶっているのかもわからない。僕は日本に来て 16 年目ですけど、日本の観光ガイドの表紙って、富士山に、京都のあの五重塔に、黒塗りのタクシーの中に芸者さんが乗って携帯電話をして、後ろに忍者とサムライが戦っているんですよ。ずっと僕は日本はそうだと思っていました（笑）。で、最初に名古屋に行ったんですけど、名古屋空港に降りた時に、絶対に空港には忍者かサムライはチョロッとはいるものだと思っていました（笑）。で、僕、今、京都に住んでいるんですけど、京都ですら舞妓さんほとんど見ないみたいな状態なんですね。でもそんな状態で僕はここに来ましたけど、日本の人達はもう少し文化を大事にしましょう。で、宗教的も一神教っていう、ひとつの神を信じて“わぁー”って動いている人達と違って、多神教といっていろんなものに感謝しながら生きている民族なんですよ。感謝して例えば何とかの精、何とかの神、水の神、魚の神、何とかの神ってこうやって生きている人間、それはなにかといったら自分達の生活に感謝していくことを文化としてもっているはずなんです。

## 感謝して少しでも出来ることを探して

忘れていませんか？感謝すること。まず感謝してきましょう、自分に対して、生きていることに対して、とりあえず、みんなに対して、犬猫に対して、他の国の人達に対して、感謝してそれでなにかできることを探して少しでもいいからやっていくことってのが、実は世界を変えることだと思うんですね。僕は 20 年間やってきました。写真も撮ってきました。でも一人では変えられないと思いました。伝えるだけだけど、変えるのは皆さんだと思っているんですね。だからこうやって喋ってるけど、こんなにいっぱいの人達がここに座って聞いてくれるだけで、これだけでも世の中変わるんだなって思うと、ワクワクドキドキする。
皆さんもワクワクドキドキしてください。私、こんなに変えられるんだ、世の中をって。
自分の力をね、小さく見すぎですね。もう本当に変えられます。だから皆さんがちゃんと思ったこと、綺麗なものは綺麗、美味しいものは美味しい、例えば、愛しているなら愛している、優しくしたいものは優しくしたい、思ったことを言葉に出すことですよ。その憎しみじゃなくてね。いいものに対していう言葉だと思います。日本って順番をちょっと間違えています。例えば、この間、地域活性化セミナーに呼ばれたんですが、その中で面白い話があるのが、ある地域の通学路が殺伐としてきた。殺伐としてきたから、なんとか優しい地域に変えたいって話をして、どうしてこんなふうになっていくのかなと思ったのが、7 時から 8 時まで「おはよう」を言おうっていう道路を作ろうとするんですね。こんなのは楽しくも何ともないわけですよ。逆にいうと、7 時から 8 時に「おはよう」っていう決まりを作ってしまうと、言っているかどうかチェックする人が出てきて、結局それでトラブってくだけでしょ。だったら、花でも植えて、ニコニコしている人が立っていれば、「おはよう」って言いたくなるんです。それと同じで、みんなも一生懸命生きて優しい気持ちでいれば、隣の人は嫌でも優しくなるんです。それは、人間がもともと持っている本能です。今回、東北ですごくその本能見せてもらいました。そのさっき言った「優しくすれば良かった。」、「いやぁ、生きていて良かった。」って。「これからは大変は大変でどうしていいかわかんないけど、とりあえず生きていて良かった。」と。そして、もうひとつ「亡くなった人達の分も、俺達は生きなきゃ。」って言います。それは東北の方々だけの話じゃありません。東北でいっぱい亡くなったその人達のためにも僕たちは生きなきゃいけない。そう思って、ちょっと生活をしてみてください。少し変わるかも分かりません。もしかして気がついたら、明日の朝、物凄く変わっているかもわかりません。それにワクワクドキドキしながら生きたいと思います。

今日は長い間どうもありがとうございました。